



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.12.13 No. 4516

安全運転争いで前進



尻無トンネル(内房線 岩井～富浦間)付近 ぶら下った倒木の 撤去かろうとする!

十二月一日、動労千葉は安全運転闘争へと入った。

闘いに入ってから六日目の十二月六日、千葉支社は、内房線・岩井～富浦間の尻無トンネル付近千葉方の切り通し斜面にぶら下がったまま放置されていた倒木を撤去した。

九月二十二日の台風十七号以降、二カ月以上にわたって運転士を不安をおとし入れてきた「倒木」を安全運転闘争に入ってから六日目で撤去させたのである。

まさに、「闘いなくして安全なし」である。

しかし、まだまだ危険箇所は放置されたままとなっている。

千葉支社は、これまで団交のなかで組合が何回も指摘し続けてきた危険箇所について、「予算措置など準備が出来たら工事にかかりたい」と言いながら、二カ月以上も放置している。

六日の尻無トンネル付近の「倒木撤去」についても、千葉支社は、十二月十日に「ようやく専門業者との作業日程の調整がついて、倒木を撤去することが出来た」との説明をしている。安全運転闘争をさらに強化し、危険箇所の改善をかちとろう!

△ ○ の倒木が撤去された。
(尻無トンネル付近 内房線 岩井～富浦間)

全員が原職・希望するところへ

10年一回総武支部定期大会

二月七日、千葉市なのはなクラブにおいて第一〇回総武支部定期大会が開催され、原職奪還と営業職場での闘う方針が決定された。

大会は西船橋駅岡安君を議長に選出して進められ、冒頭、あいさつにたった高野支部長は、「JRは奴隷職場だ。当局の前にはすすんでタダ働きをしたり、JR総連など、自ら無権利状態にしている。事故が起きれば処理もできない。台風の時など、どこから手をつけて良いか解らないほど乱れてしまった。総武支部も運転に帰る人で三六名から一六名になったが全員が原職・希望する所へもどるまで団結してがんばろう」と決意を述べた。

「JRは奴隷職場だ。当局の前にはすすんでタダ働きをしたり、JR総連など、自ら無権利状態にしている。事故が起きれば処理もできない。台風の時など、どこから手をつけて良いか解らないほど乱れてしまった。総武支部も運転に帰る人で三六名から一六名になったが全員が原職・希望する所へもどるまで団結してがんばろう」と決意を述べた。

質疑では、

・ 仕事内容が変わっても教育もしない。

・ 異常時の対応能力がない。それどころか逃げてしまう職制すら多くいる。

・ 営業職場の実態調査と要求をまずまとめよう。

等の発言があいつぎ、最後に吉野書記長より、まとめと行動提起がなされ大会は終了した。

10年間のがんばり

続いて、中野委員長が「配転され、一〇年間のがんばって来た皆さんの苦闘にむくいられるよう全力を上げる。またその時が来た。今や政府の「目標」は破産し、JRも鉄道会社としての機能が瓦解している。ダイ改提案の様に間違いに気付きもしないで指摘されても平然と「金が

96年度新役員体制

| | | |
|-----|-------|----|
| 支部長 | 高野 隆 | 船橋 |
| 副 | 大塚 明 | 西船 |
| 書記長 | 吉野幸成 | 〃 |
| 執行委 | 海老根義雄 | 船橋 |
| 〃 | 岡安正人 | 西船 |